

**「なぜイスラエルからイノベーションが生まれるのか？」****～現地起業家レポート～**

スタートアップやイノベーションという言葉聞いてイメージする国はどこでしょうか？今回は、数々のイノベーションを生み出し、日本でも徐々に注目を集め始めているスタートアップ大国イスラエルについてご紹介させていただきます。

私は2014年よりイスラエルに渡り、日本人として初めてVCからの支援を受けて現地で会社を起ち上げました。スタートアップとベンチャー企業はほぼ同義と言ってもいいかもしれませんが、イスラエルではスタートアップという言葉が日常に浸透しており仰々しい感じがありません。空港から都心のテルアビブに向かうタクシーの中で運転手と会話すれば、「イスラエルには何をしに？」「ここでスタートアップをやっているんです。」「そうか！イスラエルはスタートアップの国だからな！！」という具合に。

さらに、就職先としてスタートアップを選ぶことはもちろん、自分でスタートアップを起ち上げるということも何ら珍しいことではありません。例えば、今一緒に働いているエンジニア達は大学卒業後すぐフルタイムで参画してくれましたし、先日は12歳の起業家・CEOと話をしたくらいです。また、木曜日の夜に（イスラエルはユダヤ暦に則り休日が金土なので木曜日の夜が日本で言う金曜日の夜）、バーに行き、近くにいる人と話したならば感覚的に6割くらいが何かしらの形でスタートアップビジネスに関わっています。

そんなイスラエルが、世界からどのように評価され、どういったイノベーションを生み出しているのかについて見ていきましょう。まず、一人当たりのスタートアップ投資額が群を抜いて世界一です。2014年の年間のスタートアップ投資額は約4,000億円と総額で日本の倍以上、国民一人当たりでは約30倍となっています。特定の領域では、グローバルでトップのスタートアップ集積地シリコンバレーをも凌ぐという点から考えるとその凄さがお分かりいただけるでしょう。このように多額の投資を集め続けているということは、高いパフォーマンスでしっかりとリターンを出しているということに他なりません。これまで生み出してきたイノベーションの例をご紹介しますと、プチトマト、USBメモリ、ファイアーウォール、カプセル型内視鏡、自動車の衝突防止システム等枚挙に暇がありませんが、イスラエルの発明がコアにあるとは知らずに日常的に触れているものが多いのではないのでしょうか。

では、なぜイスラエルから多くのイノベティブなスタートアップが生まれているのでしょうか？その説明をする際絶対に外せないのが産学官（軍）が一体となったスタートアップエコシステムについてです。1990年代初頭Yozma Programというスタートアップ投資を促進する政策が大きな成功を収めました。この政策は、政府が大きなインセンティブを与えることで、グローバルに成果を上げているVCや事業会社をイスラエル国内に誘致し、スタートアップ投資を促すというものでした。軍隊や大学等の研究機関での技術シーズを投資家と連携して上手く事業化し、成果を挙げる企業が数多く生まれ、2016年時点でのNASDAQ上場企業数は世界第4位の約80社で、国民一人当たりで言うと米国を除く国の中ではトップとなっています。スタートアップ政策を全面に打ち出して僅か25年で、人口約800万人の小国が世界に名を馳せるスタートアップ大国へと成長したのです。

そんなイスラエルの地で私が仲間と共に現在行っている事業は、スタートアップと投資家の間に存在する情報ギャップを解消することを目的とした知的エージェントをコアとするイノベーションプラットフォームMillion Timesの開発・運営です。シリコンバレーやイスラエルで生まれたスタートアップエコシステムを科学し、最先端技術を駆使して世界中から変革を起こすスタートアップを次々と生み出す「Startup Nation 2.0」を実現することが我々のビジョンです。また、その一部を形成する活動として、現地のネットワークを活かしたイスラエルスタートアップと日系大手企業との連携支援、動画とWEBプラットフォームを活用したピッチイベントの開催も行い、実際の連携・投資事例を生み出しています。

私は神戸で生まれ育ち、学生時代を大阪と京都で過ごした関西人なので、現在の事業を通して、人々が生き活きと挑戦できる社会を創り、世界中の人々を笑顔にできるような価値を生み出し、地元に戻りたいと考えております。余談ではありますが、イスラエル人は関西人と似て世話焼きで親切でフレンドリーな人が多いです。またイスラエルの都市テルアビブは地中海に面したリゾート地、エルサレムではユダヤ教、キリスト教、イスラム教の聖地として歴史を感じることができ、死海でのんびり浮かぶこともできるという、想像以上に素敵な土地で観光にもお勧めですので、是非一度お越しください。

**<寺田 彼日 プロフィール>**

2014年日本人初のイスラエル現地スタートアップAniwoを設立する。

イノベーションプラットフォームMillion Timesの開発・運営を通して革新的価値創出に挑む。

日本-イスラエル間では10社以上の投資・連携の実現に貢献。

京都大学大学院経営管理理学部卒 (MBA)、大阪大学経済学部卒、兵庫県神戸市出身

あれから何年たちましたか**— 『世界のウチナンチュ（沖縄出身の人）大会』で再会する—**

観光先進国を目指している日本は、かつてのYOKOSO JAPAN(ようこそジャパン、「現在は『Japan. Endless Discovery』)の下、2020年のオリンピックまでには、海外からの来日客を4,000万人とすることを目標に、「気候」、「自然」、「文化」および「食」という4つのキーワードで、魅力あるコンテンツ作り日々努力しているところですが、観光立県の一つである、沖縄県でも『ビジットおきなわ計画』の施策を基に、海外からのお客様に対して、『Be. Okinawa』というキャッチフレーズ（『行動を呼び掛ける』、『ワクワク感』のイメージが込められているとのこと）や、こちらにお越しになる国内外の方々に対して観光業の関係者だけでなく、みんなで「おもてなし」の心で迎え入れましょうということで、『ウェルカムんちゅになろう』（welcome人）というキャンペーンが行われています。

沖縄県の発表では、昨年度の入域観光客が約794万人で、前年比10%以上の増加となっており、それらの要因として、「年度全体として、円安傾向に伴う国内および訪日旅行需要増」、「LCC等海外航空路線の拡張、クルーズ船の増加」と分析されています。イギリスのEU離脱決定や円高などの影響で今後の動向が今後気になるところですが、沖縄県としても観光客数1,000万人を目標としていて、先のソフト面の他にハード面（那覇空港滑走路増設・クルーズ船の複数寄港地の検討および各観光地へのアクセス道路整備）の整備を進めているところです。

さて、私の職場の上空は航空機の航路になっていて、今の季節は、「沖縄は楽しかったですか？ また来てくださいね。」と見送り、逆に冬になると、「ようこそ沖縄へ。楽しんでいてください」とお迎えする感じとなるが多くなります。沖縄から離れていく人々の中には当然沖縄出身もいらっしゃるわけで、島から離れる期間もそれぞれですが、それぞれの思いを胸に旅立って行くと思います。今から約120年前の1899年には、沖縄の将来を想う山久三氏（「いざ行かむ 吾等の家は五大洲」の言葉を残し、のちに『移民の父』と呼ばれる）が、土地狭隘や人口増等の対策として、海外移民を企画・奮闘し、那覇の港から20数名をハワイに送り出しました。



(山久三氏)

その後国の政策等により、戦前・戦後、移民先も北米、南米、アジア地域等と移民は続き、現在では39万人以上の沖縄県系の方々、ブラジルの（約18.7万人）をはじめアメリカ合衆国（約9.7万人）、ペルー（約6.9万人）など世界各地で頑張っています。移民の成功は、沖縄県の経済発展にも貢献しました。特に戦後の復興に際し、沖縄県系人の支援が支えの一つになりました。そのような状況下で、「世界に雄飛し、活躍しているウチナンチュは、沖縄の貴重な人的資源として、これらの財産を経済、文化、学術等の各分野において沖縄を要として結び付け有機的に機能させるためのネットワークを確立する」ことを目的に、『世界のウチナンチュ大会』のイベントが、来る10月26日の前夜祭に始まり、10月27日～30日を本大会として、那覇を主会場に開催されます。

1990年の第1回大会から5年ごとに開催（第3回は2001年）され、今回で第6回を迎えます。海外からは、沖縄2世・3世、また沖縄にゆかりのある方など、5,000名規模の参加（里帰り）が予定されています。会期中はこれまでの移民にまつわる企画展、伝統芸能祭、世界各地のワールドバザールが開催されます。また、それぞれの出身地である市町村においても、歓迎レセプションが予定されており、親戚や友人との再会を喜びあいます。一般の方々も、楽しめるイベントですので、ぜひお越しください。

(沖縄県在住 城間 保)

～就職を目指す留学生たちとの奮闘の日々～

私は留学生の専門学校でビジネスマナーの非常勤講師をしています。学生の国籍はベトナム、中国、ネパール、台湾、韓国、インドネシア、スリランカなど様々です。彼らは卒業後、日本で就職するか帰国して日系企業で働くことを目標に勉強しています。そのために日本式のビジネスマナーを身につけることが必要不可欠です。しかし、入学してきた時には「ビジネスマナー」という言葉すら知りません。ですから、まず「ビジネスマナー」とは何か？なぜ大切なのか？というところから教えなければなりません。全員、日本語の学習経験はありますが、日本語学校などでは習わない言葉やビジネス用語が出てくるので、言葉の説明もしなければなりません。中華圏の学生は見れば意味はある程度わかります。しかし、現在は半数ぐらいがベトナム人で、続いて多いのはネパール人です。私が担当している学生は約100名ですが、そのうち中華圏の学生は10名程度です。つまり、ほとんどの学生は漢字が苦手なのです。そのため、絵を描いたり吉本新喜劇のようにオーバーアクション付きで声を張り上げて説明をしています。

また日本人にとっては当たり前のことが理解できなかつたり、逆に日本人からすると不思議に思う行動をとることもあります。私は中国での留学経験があるので、それは文化の違いで特別なことではないと理解できます。しかし、ここは日本なので日本の文化や習慣を受け入れてもらわなければなりません。ビジネスマナーも正に日本の文化の一つです。

半期が終わる時に、学生たちには感想を書いてもらいます。「先生のおかげでビジネスマナーが何かわかりました。ありがとうございます。とても大切だと思います。これからも頑張って勉強します。よろしくお願いします。」などと書かれてあります。「日本人は細かすぎて面倒くさい」と言いながらも、それを受け入れて身につけようと前向きに取り組んでいる姿勢がその文章から読み取れて、よかったとホッとする気持ちと嬉しい気持ちで胸がいっぱいになります。

私が講師をさせて頂いている学校は就職率がほぼ100%です。もちろん、学生の能力は大切ですが、最初に問われるのはマナーです。企業に問い合わせをする時の電話のかけ方から面接での態度がとても重要になります。それを教えるのも私の仕事です。責任重大なので、毎回全身全霊をかけて挑んでいます。



すみれナレッジ 岡部佳子 <https://sumire-kl.com/>

～ITとおカネのお話～

ここ最近VEC関西支部様にお邪魔しております、株式会社もも、富原と申します。よく社名の由来を聞かれるのですが、ここではマア・・・

弊社はITコンサルティングから、企業内の業務システム・Webサイト・スマートフォンアプリの提供などを行っています。みなさま“IT”と聞くと「あの金食い虫か!」「ワシ関係ないわ!」「わからん!お前の話はわからん!」となってしまうのですが・・・

せっかくなので、コンピュータの話ではなく、みなさまの企業での“ITとおカネ”について少しお話ししたいと思います。

まず、みなさまは売上高に対してIT予算をどれぐらい計上しているのでしょうか？調査によると、業種ごとに異なるものの、おおむね0.5～0.8%という結果が出ています。もちろん平均であればいいという訳ではありませんが、おおまかな目安にはなります。ただし、金融業は突出しており7%前後で、いかにITが重要な位置を占めているかが伺えます。業種により高低はありますが、その他はだいたい0.7%前後と捉えてください。もちろん、自社のIT投資が平均より高かったとしても、それを活かしていれば問題はありません。

しかし、そのIT投資の内訳が本当に“IT投資”なのかという点も重要です。

例えば、ネットで販売したらいっぱい売れた!というケースを考えます。確かにITのおかげで売れたようには見えます。ところがこのケースでは、販売チャネルを増やしたことが売上増加につながったのであり、いわゆるITの活用とは少し違います。ネットでの広告宣伝費などもそうですね。業務効率化や品質向上のためのIT投資と、このような販路拡大をまとめて“IT投資”としてしまうのは少し危険です。販路拡大プロジェクトへの投資は、プロジェクト別に収益を算出して効果測定すべきだからです。

経営判断では、そういった投資をそぎ落とすうえで、IT投資額を最終的に決定します。ここで、一般的にIT投資は5年程度の計画で行いますが、5年間で初期投資と同額以上の金額が運用コストとしてかかってくることに注意してください。1億円のシステム構築では、5年でトータル2億円、その間の環境変化への対応費がまた別にかかる、というようなイメージを持っていただければいいかと思います。

ざっと概論だけになりましたが、これらを踏まえて、みなさまの企業のIT投資額を見つめなおしていただければ幸いです。

株式会社もも 代表取締役 富原 祐 <http://www.kabumomo.com>

業種	調査社数	売上高 IT投資比 (%)
全体	763	0.75
建築・ 土木	68	0.43
素材 製造	163	0.63
機械 器具 製造	202	0.77
商社・ 流通	119	0.59
金融	37	7.40
社会 インフラ	56	0.98
サービス	117	0.84

～VEC関西より～

・VECの関西支部長を拝命してから20数年を超えと思いますが、最近ご参加いただく方々はいつも50人を超えるようになってきました。また、だんだん国際化し内容も多様化し今月号の「てんこもり」もイスラエル、沖縄、ベトナム、またITのお話など。VECの交流会はほんとに新しい情報が飛び交っています。ビジネスチャンスやアイデアが、そこいら中に転がっています。情報に貪欲くらい付き、大いに利用、発展されることを願っています。(本田)

・毎年、夏の高校野球大会が楽しみです(春も好きですが・・・)。暑い甲子園球場のアルプスタンド応援団の近くで知らない者同士でも一緒になって応援し、かち割り氷片手にと・・・よく球場に行きました。今年で休部となったPL学園野球部、最後の大阪大会感動ものでした!PLの人文字好きでした。残念です。復活を願っています。(藤本)

・以前から楽しみにしていた「日本の色のルーツ」のセミナーに参加してきました。やはりルーツとなると自然・神道・仏教・陰陽五行説・禅などの勉強

から色の変遷の意味の深さを学び日本古代から現代アートに至るまで興味深い講義でした。日本のわび、さびから日本人としての美意識に改めて感激しました。(濱本)

・1100年を越えて続けられている祇園祭。7月17日の人出が19万人という中で初めて巡行に参加し袴姿で約2時間半の歩きでありましたが神事を全う出来ました。祭りを支えているのは人・物・金と結束力で、まさに企業経営と共通していることを強く感じました。8月号に相応しい熱いメッセージを皆様から頂きました。猛暑の候ご自愛願います。(澤村)

<交流会の予定>

平成28年9月28日(水) (一社) 全日本らくらくピアノ協会

代表理事 光畑 浩美 様

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293